「静岡赤十字病院研究報」投稿規定

(2004年12月改訂)

1．本誌は，総説，原著，症例報告，学会報告，各部門研究会記録，施設見学報告などを掲載する．原著と症例報告は，その内容が過去に他誌に掲載されたり(ただし，抄録のみの掲載は該当しない)，あるいは現在投稿中もしくは掲載予定でないものに限る．総説，原著，および症例報告には英文抄録が必要である．
2．発行は年1回，受け付けは10月1日，締め切りは10月31日とする．
3．投稿原稿は複数の査読者の査読をへて，編集委員会で採否を決定する．審査の結果，編集方針に従って投稿原稿の改訂変更を依頼する．なお，文章表記等については編集方針に基づき，編集委員会が加筆，訂正を行う場合がある．
4．初校は著者校正とし，原稿にない大幅な修正や加筆はしない．再校以後は編集委員会にて行う．
5．投稿原稿はフロッピーディスク(3.5インチ)とプリントアウトしたものを1部．投稿論文はテキスト形式で保存し，フロッピーディスクのラベルに使用機種とソフト名，著者名，略題を明記する．
6．掲載した原稿は返却しない．写真，図については，著者の申し出により返却する．
7．論文提出時に投稿論文チェックリストも提出する．

■原稿の書き方

1．言語は日本語または英語とする．原稿は横書きとし，パソコン(フォントサイズ10〜11ポイント，Word文書)を使用し，B5用紙に1ページ460字(和文：23字×20行，英文：半角46字×20行)，上を35 mm，下を30 mm，左右20 mmずつあけ作成する．外国語やアラビア数字は半角を用い，変換できない文字や記号は，手書きで明瞭に書き入れる．薬品名は一般名で書く．

原稿の構成：表紙，論文要旨，英文抄録，本文，文献，図表，図表の説明の順とする．表紙には，表題，著者名，所属，和文キーワード，図表の数，希望別刷部数(別刷1部より)，連絡先(住所，電話，掲載希望者はe-mailアドレス)を記入する．原稿には頁数を各頁最上段右に記入する．

論文要旨：460字以内．

英文抄録：英文タイトル・著者・所属および抄録(B5用紙で300ワード以内)・英文キーワード．

キーワード：5語以内

本文：常用漢字，現代仮名づかいを用い，楷書体で平易明瞭とする．原著は，緒言，対象と方法，結果あるいは成績，考察，結語の順に，症例報告は，簡単な書き出しの後に症例，考察，結語の順に記述することを原則とする．総説はこの限りではない．各章の見出しはローマ数字(Ⅰ．Ⅱ．…)による番号付けをし，章の中の項目はアラビア数字(1．2．…)，項目以下の細分は，1）2）…を用いる．外国人，地名，雑誌名は原語を用い，活字体とする．

図・表：本文とは別にして1枚ずつ添付する．本文中にそれらの挿入場所を明示し，また，およその縮小率を明記すること．そのまま掲載されるので，図表は完全版下を貼付する(コピーは不可)．図(写真)で患者名を特定できるような記載はすべて削除すること．

図(写真)は手札型(13 cm×9 cm)以上の大きさで鮮明であること．顕微鏡写真には染色法と倍率を明記する．電顕写真にはスケールを表示するバーを入れること．文字や矢印を記入する場合は，インスタント・レタリングを使用するか，またはトレーシング・ペーパーをかけた上に記入すること．なお，原寸大の製版を必要とするものはその旨を明記し，その大きさは21 cm×14.5 cmを限度とする．原図の裏に著者名・図番号・天地の指示(矢印)を鉛筆書きする．

それぞれの図表の簡単な説明は別紙に順に記載する．説明文は日本語，英語を問わないがどちらかに統一する．ただし英語の論文では説明文も英語とする．

2．略語：表題，論文要旨および英文抄録には略語を用いてはならない．本文中にしばしば繰り返される語は略語を用いて差し支えないが，初出の時はフルスペルで記載し，以下に略語を使用することを明示する．

(例)

迷走神経切離術(迷切術)

肝細胞癌(hepatocellular carcinoma ; HCC)

computed tomography (CT)

3．枚数制限：原稿の長さは，表紙，論文要旨，英文抄録，本文，文献，図表，図表の説明を含め，総説と原著では40枚以内(図表は20枚以内)，症例報告等では30枚以内（図表は10枚以内）とする．

4．文献の書き方

文献は本文中に順次に番号を付け（…との報告がある[1,2]．…である[1~3]．）本文の終わりに番号の順に従って列挙する．著者は3名までを記載し，それ以上は「ほか」「et al」とする．邦文雑誌名は医学中央雑誌，欧文雑誌名はIndex Medicusの省略名に準拠する．

(例)

a．**逐次刊行物の場合**：著者名．論文題名．雑誌名（略称）発行年（西暦）；巻号：ページ（最初と最後）．

1）日赤太郎，静岡次郎，追手三郎ほか．静岡赤十字病院における黒字経営の研究．日赤医療 2000；92(5)：192-197.

2）Janecka IP, Sen C, Sekhar LN, et al. Facial Translocation : a new approach to the cranial base. Otolaryngol Head Neck Surg 1990 ; 103 : 413-419.

b．**著者の場合**：著者名．書名(編集者名)．発行地名：発行社名；発行年・ページ．

1）行木英生，田中一郎．頭蓋底・顔面組織の一塊切除術と欠損部位の再建手技．頭頸部がんの境界における治療法の最新の進歩（犬山征夫監修）．東京：協和企画通信；1992．P.33-38.

2）Phillips SJ, Whisnant JP. Hypertnsion and stroke. In : Laragh JH, Brenner BM, editors. Hypertension : pahophysiology, diagnosis and management. 2nd ed. New York : Raven Press ; 1995. p.465-478.

c．**電子文献の場合**：著者名．論文名．雑誌［媒体表示］．版．出版地：出版者．更新や改訂の日付[引用日付]．ページ等．アクセス先．ISSN．

1）Linde K, Jobst KA. Honeopathy for chronic asthrma.［online］. 東京：JANCOC.［cited 1999-02-06］abailable from URL. htttp://www.nihs.go.jp/cochrane.html.464-780X